

## Ⅸ 学内実習(みなし実習)について

### 1. コロナ禍における学内実習実施の背景

2020年3月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が問題となり、保育士養成校では卒業式・入学式の中止や対面授業から遠隔授業の切り替えのための準備など対応に追われた。4月7日には政府による緊急事態宣言が発出され、全国的に様々な活動の自粛や行動制限が求められた。

コロナ禍における養成校の対応については2020年3月2日厚生労働省子ども家庭局保育課より「新型コロナウイルス感染症に伴う指定保育士養成施設の対応について」が示された。コロナ禍で教育と学習の保障に取り組む養成校が直面した大きな問題は、実習先確保とその実施であった。保育実習は保育士資格取得に必要な必修科目である。しかし、実習先、特に保育実習Ⅰの中で保育所を除く社会福祉施設で行う実習(以下、施設実習)の実習先施設からの中止・延期の申し出が相次ぎ、学生の実習先確保の困難、実習時期の変更などを余儀なくされた。

その後6月15日に厚労省より新たにコロナ禍における養成校の対応について「新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと」が示された。これにより厚労省からの実習代替が困難である場合の演習又は学内実習(以下、みなし実習)の実施が可能と示された。

しかし、演習及び学内実習の具体的方法については養成校で検討しなければならず、みなし実習を学生にどのようにして行わせるのか、保育実習の教授内容、教授方法について、早急に検討する必要性が生じていた。

新型コロナウイルス感染症は、2022年4月現在も収束する兆しが見えていない。したがって今後も同等の対応が続くと思われる。2020年～2021年はどの養成校も手探り状態でみなし実習を行った。この経験に基づいて、実施校や実施者、体験者等からの報告を集約し、課題、疑問、感想等を整理していくことで、今回提案したみなし実習案について改善し、コロナ禍を含む様々な事情で実習実施が難しい状況であっても学びを止めない養成校を実現するための共有財産となるよう研磨していきたいと考える。

### 2. 学内実習の検討過程とポイント

「保育実習Ⅰ(施設)学内実習(代替案)」を検討するにあたって、以下の内容を基本に置きつつ、検討をおこなった。

#### (1) 教授内容に即したテーマと内容

厚労省告示の教授内容に即してテーマを決め、実際の実習に即した内容を検討する。教授内容は「目標」と「実習内容」で構成されており、「目標」を達成するための「実習内容」が具体的に記載してある。本来の実習はこの「実習の内容」が複合的に展開されているため、みなし実習案を作成するにあたっては、教科目教授内容を組み合わせ、実際の実習内容に合ったテーマと内容を検

討した。

## (2) 教材等の提示について

教授方法については担当教員が学生に提示しやすい教材等を具体的に示す。実際の実習では、対象者(子ども・利用者)との出会いを軸に、直接的なかかわり、その振り返りなどを通して学びが展開される。この対象者との出会いがみなし実習では得られないため、できるだけ学生にとって本来の実習に近い学修成果が得られるように、具体的な映像教材やゲストスピーカーの活用例、模擬保育の方法例などを示せるよう検討した。

## 3. 実践上の留意点

みなし実習の位置づけとしては、本来の実習を諸事情により行えなかった部分を補う方法である。例えば、実習先の事情や要望等により実習日数が5日間になった場合、その不足分をみなし実習で補うことになるが、実際の実習内容は複合的に展開されており、同じ5日間の実習期間であっても、実習で学習した内容にはばらつきがある。このため、みなし実習を行う際は、教科目教授内容のどの部分を補い実施すればよいのかが問題になると思われる。

今回作成した「保育実習Ⅰ(施設)学内実習(代替案)」を使用してみなし実習を実践する際は、全ての内容をひとまとまりのパッケージとして実習の代替手段として扱うのではなく、実習実施における限界を補う方法となることを想定している。学生の実習における学修状況を把握した上で、不足している点や実習で学ぶことが難しかったことについて、実習のテーマ及び内容を組み合わせてみなし実習を展開し、各地域および養成校、それぞれの実習生の状況に応じた柔軟かつ部分的な使用を期待するところである。また、教授時間数については、その成果状況に合わせて柔軟に変更可能に使用できることを意図して作成している。

保育実習Ⅰ(施設)学内実習(代替案)

教科目の教授内容	テーマ	内容	教授(授業)方法	実時間 (目安)
1-(2)施設の役割と機能 5-(1)保育士の業務内容 5-(2)職員間の役割分担や連携 5-(3)保育士の役割と職業倫理	学内実習の理解 実習の目的、目標の設定 実習施設の多職種連携	実習の流れと評価方法を理解する。 学習内容の詳細を理解し、学習の目標を設定する。 実習施設において保育士以外にどのような職種の人が働いているかを理解し、保育士の役割・機能を理解する。 保育士職業倫理を理解する。	【学習方法】 ・内容に加工したPowerPoint ・施設実習系のDVD等の視聴 ・レポート課題 ・レポート課題 【除修教材の例】 施設実習1日の輪としての施設実習の概要の動画が望ましい。以下の例を参照のこと。 ・原簿著書施設における施設実習(全2巻)：ジャパン情報通信センター ・施設実習の準備知識 株式会社新宿スタジオ ・施設実習の準備知識 株式会社新宿スタジオ 監修・指導：東洋英和女子学院大学 文島 恭二 【レポート課題】 レイアウトプログラムの内容を捉えられる項目や、保育士倫理講義の穴埋め、学内実習の目標設定などを含む内容が望ましい。	2
1-(2)施設の役割と機能 5-(1)保育士の業務内容 5-(2)職員間の役割分担や連携 5-(3)保育士の役割と職業倫理	施設の理解 (施設職員(管理者担当)による講話) ※養護系と療養系の2系統で、各1時間程度。	施設の概要・機能を聞き、施設の役割を理解する。 保育士の役割と多職種の役割を聞き、保育士の業務内容を理解する。 例：施設外 認可外 児童/民生委員)ともわかっている例もある(地域差はあるが)。原簿相親所の職員から職員、保健師との連携、保育士としてつながっている例を示すのも良い。 ※施設内の連携も大切にすることが望ましい。 施設職員としての職業倫理を聞き、保育士の職業倫理について理解を深める。施設職員による講話(管理者担当)	【学習方法】 ・ゲストスピーカーによる講話 ・ゲストスピーカーの活用例 【参考資料】 【保育実習】 【レポート課題】	2
3-(3)子どもの活動と連携	子ども・利用者の生活	子ども・利用者の日々の生活や活動(学習活動、余暇活動等)について理解し、その連携を理解する。	【学習方法】 ・事例学習 ・ゲストスピーカーによる講話 【ゲストスピーカーの活用例】 近隣施設の実体に合わせて内容について、生活(例えば読書等)の連携の実際の姿を理解できるように講話内容を構成いただくように依頼する等が考えられる。 【除修教材の例】 講話を録音した後、施設の生活環境に関する実際の姿を理解できるかをチェックすることができ、講義を提示することが望ましい。 例えば、理解項目を整理し5段階チェックのような形をとった上で、学生の理解が及んでいない項目に対しフォローする等の対応も考えられる。	2
1-(1)施設における子どもたちの生活と保育士の関わり 2-(2)日々の状態に応じた援助や関わり 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応	生活と保育士のかかわり① (乳児院・児童養護施設)	施設における子どもたちの生活の流れを理解し、そこに関わる保育士の役割について理解する。	【学習方法】 ・施設実習系のDVD等の視聴・事例提示 ・レポート課題 ・レポート課題 【特定の施設について学習を深める、あるいは施設説明ごとに学ぶなどの方法が考えられる。】 【除修教材の例】 【学習目的】 ・保育士へのあゆみ(全2巻のうち第1巻)：株式会社新宿スタジオ 【レポート課題】 入所後の子ども、利用者・入所者と保育士の関わりを重点化して、レポートを記述させることが望ましい。 【参考】 Youtube等を活用し、学生に関連する動画を探索しレビューする課題を出し発表させるなどの方法も考えられる。	4

教科目の概要内容	テーマ	内容	教授(授業)方法	実時間 (目安)
1-(1)施設における子どもとの生活と保育士の援助や関わり 2-(2)個々の状態に応じた援助や関わり 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応	生活と保育士のかかわり②(障害者支援施設)	施設における利用者の生活の仕方や基本的生活習慣について理解し、保育士の援助や関わりについて理解する。	【学習方法】 ・施設実習系のDVD等の視聴・事例提示 ・レポート課題 ※特定の施設について学習を深める、あるいは施設種別ごとに学ぶなどの方法が考えられる。 【除稼教材の例】 知的障害者施設の日：株式会社アローウイン 監修：立松美子 東京福祉大学大学院教育学研究科教授 【レポート課題】 入所後の子ども、利用者・入所者と保育士の関わりを重点化してレポートを記述させることが望ましい。 【参考】 等を活用し、学生に関連する動画を探索しレビューする課題を出し発表させるなどの方法も考えられる。	4
63-(4)健康管理、安全対策の理解	日常的な健康管理及び感染症対策演習 ※施設における感染症対策のDVD等の視聴・講話/生活の中での感染症対策	・感染症対策に必要な技術を演習を通して身に付ける。 ・健康診断、避難訓練、手洗い、施設に入るにあたっての注意事項。 ※児童養護系と障害者支援系に分ける。	【学習方法】 ・DVD視聴・事例学習 ・ゲストスピーカーによる講話(要請職員) ・レポート課題 【ゲストスピーカーの活用例】 施設における日常の健康管理・安全対策・感染症対策等について、理解を促される内容を構成いただくよう依頼する等が考えられる。 【理解度チェック課題】 講話を聴講した後、後温や後寝等を含めた日常の健康管理や感染症対策について理解度がチェックできる課題を提示すること望ましい。 例えば、理解項目を整理し5段階チェックのような形をとった上で、学生の理解が及んでいない項目に対しフォローする等の対応も考えられる。	4
3-(1)計画に基づく活動や援助 74-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	施設種別ごとの長期(年間)の支援計画の理解 ※養育支援計画、自立支援計画、個別支援計画は見せてもらえないかもしれないので。) )	施設種別ごとの支援計画について、施設サービスを利用している子ども・利用者の意向や適性その他の事情を踏まえて作成されることを理解する。 子ども・利用者を見る視点や記録の書き方を学ぶ。 支援計画の視点や計画書作成の留意点について学ぶ。	【学習方法】 ・ゲストスピーカーによる講話(要請職員) / 支援計画の提示(養成校教員) ・レポート課題 ※ゲストスピーカーは、施設の実習担当者が望ましい。 ※支援計画の内容自体は詳しく思われるが、可能であれば支援計画のフォーマット等だけでも見せていただければよい交渉してみることも有効と考えられる。	2
2-(1)子どもの観察とその記録 3-(1)計画に基づく活動や援助 84-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	施設職員による講話(実習担当者相当)	・実習日誌の様式に即した記録のポイント。 ・見るべき視点の提示。	【学習方法】 ・ゲストスピーカーによる講話(要請職員) ・レポート課題 ※ゲストスピーカーは、施設の实習担当者が望ましい。 ※ゲストスピーカーの講話内容は、現場で実際に行われている日々の記録の種類等についてお話しいただき、見るべき視点の理解につなげていくことが望ましい。	2
2-(1)子どもの観察とその記録 3-(1)計画に基づく活動や援助 94-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	実習日誌の記入	DVDを視聴して実際に日誌を記入する。	【学習方法】 ・DVD(録画版)視聴と日誌の記入、提出 【視聴中の記録のポイント】 日常場面、特定の場面にとどまらず、子どもの姿に対する気付きを拾い上げること意識させ、ディスカッションに活かすことのできる材料を準備させるように取り組ませることが望ましい。 【除稼教材の例】 ・児童養護施設における施設実習(全2巻)：ジャパン情報通信センター 監修：こども教育宝仙大学 こども教育学部 准教授 藤田 恭介 ・施設実習の予備知識：株式会社新居スタジオ 監修・指導：東洋英和女子学院大学 大嶋 恭二 ・知的障害者施設の日：株式会社アローウイン 監修：立松美子 東京福祉大学大学院教育学研究科教授 ・保育者へのあゆみ(全3巻のうち第1巻)：株式会社新居スタジオ 監修：社会福祉法人慈恵財団母子実習会 ・「隣る人」・「いたいただきます」等の映画	8
2-(1)子どもの観察とその記録 3-(1)計画に基づく活動や援助 104-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	実習日誌を基にディスカッション	記入した日誌をもとに、子どもの姿についての気づき等についてグループディスカッションを行う等、それぞれの日誌の内容や書き方、捉え方等について共有し、よりよい日誌の記入の仕方について検討する。	【学習方法】 ・グループ5名程度のディスカッション(子どもの姿についての気づきの共有・多様な気づきの理解) ・講義(気づきを記述する方法について) ・日誌の再提出	6

教科目の教授内容	テーマ	内容	教授(授業)方法	実時間 (目安)
11 3-(1)計画に基づく活動や援助 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 3-(3)子どもの活動と環境	指導案(余暇活動等)の作成(集団)	施設の子ども、利用者を対象(5名～10名)としたレクリエーションの指導案(30分～40分程度)を作成する。 ※指導案については、集団活動技術を学ぶという視点から、日常の余暇活動・食事場面等も考えられる。	【学習方法】 ・指導案の作成 ※別居児童、児童養護、医療型障害児入所施設、福祉型障害児入所施設等から選択し、具体的なイメージをもって指導案を作成することが望ましい。 ※種別の選択に関しては、養成校で検討し判断する。	4
12 3-(1)計画に基づく活動や援助 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 3-(3)子どもの活動と環境	指導案(余暇活動等)の実践	学生を子ども、利用者に見立ててロールプレイを行う。	【学習方法】 ・模擬保育 1グループ10名程度で保育士役1名、子ども、利用者役5名、観察者4名程度で保育実践 ※この時間のみ対面での実施が必要となる。	12
13 3-(1)計画に基づく活動や援助 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 3-(3)子どもの活動と環境 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	指導案実践の反省・評価	実践した指導案を振り返りながら、保育士の配慮点、新たな気づき、子ども、利用者理解を深める。利用者役を行った学生からの意見を聞き、さらには子ども、利用者の理解と保育士の配慮事項を考える。	【学習方法】 ・模擬保育を通してのグループディスカッション 1グループ10名程度で保育士役1名、子ども、利用者役5名、観察者4名でディスカッション・講評	12
14 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	支援計画の反省・考察	ソーシャルワークの一連の流れを踏まえた社会的擁護における保育士の支援について学ぶ。	【学習方法】 ・アセスメント、支援計画(作成・修正)の一連の流れを、子ども、利用者の実態やかかわりを基に、全体像を把握する。 ※施設実習担当教員だけでなく、社会福祉にかかわる教員と連携し取り組むことが望ましい。場合によっては、ゲストスピーカーを依頼することも視野に入れる。	2
15 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	各種別ごとの支援計画の理解	施設種別ごとの支援計画について、施設サービスを利用している子ども、利用者の意向や特性その他の事情を踏まえて作成されることを理解する。 支援計画作成の具体的な手順と作成ポイントを学ぶ。 支援計画の視点や計画書作成の留意点について学ぶ。	【学習方法】 ・ゲストスピーカー ・ゲストスピーカー活用例 【ゲストスピーカー活用例】 大きく集連系、障害系、障害系等の職員に実習使用している支援計画等の書式を提示していただく。また可能な範囲で事例を踏まえた作成手順や記入時の留意点について提示していただく。 【教材例】 児童相談所「児童養護施設で用いられる「子ども、若者ケアプラン(自立支援計画)」を用いると、同一書式内で様々な児童養護等の多様なケースを扱えるため、ケースによる支援計画の違いが分かりやすいかもしれません。 厚生労働省参考URL <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/000348508.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/000348508.pdf</a>	4
16 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく観察・自己評価	支援計画のディスカッション	支援計画を基にグループディスカッションを行い、新たな気づき、子ども、利用者理解を深める。	【学習方法】 ・グループディスカッション(1グループ5名程度) ※可能であれば、前回の講話で話していたゲストスピーカーにも継続して参加いただくことが望ましい。 ※ケースの印象、問題意識と比較して意見をも良い。 【教材例】 ・支援計画の基本的な書式は、「子ども、若者ケアプラン」や、社会的養護等のテキストに記載されているものを用いながら行うのも良い。また卒業生等が作成した実習報告書を活用するのも良いが、個人情報取り扱いには十分留意する。	8
17 5-(3)保育士の役割と職業倫理	施設保育士の役割	施設で働く保育士に求められる資質、職業倫理について考える。 児童・利用者の権利擁護について考える。	【学習方法】 ・レポート作成に向けたグループワーク ・レポート課題 ※例えば、理解項目を整理し段階チェックのような形をとる等が考えられる。 ※施設の社会的役割や、そこで働く保育士の役割について考えさせることも検討できると良い。 【教材例】各施設が示している職員の倫理綱領を活用するのも良い。	2
				80